

巻頭言 「文学部改革とFDの取り組み」

文学部長 大槻 俊夫

今、文学部では新しいカリキュラムの策定に向けて検討を進めています。文学部が旧5学科体制から人間学科1学科7専修体制へ再編されて、今年でまだ4年目ですが、人間学科としての内実をさらに深化させようという方向で、専修ごとのカリキュラムを見直すなどの改革を始めました。人間学科は発足にあたり、創立者より、「生命の尊厳の探究者たれ!」「人類を結ぶ世界市民たれ!」「人間主義の勝利の指導者たれ!」との三指針を頂きましたが、改革によりこの三指針を実質化できる文学部人間学科をつくっていきたいと考えています。

カリキュラム改定の方向性の第一は、文学部らしい幅広い教養と深い専門性を可能にする学修課程にすることです。文学、哲学、思想、歴史、社会、文化について専修の枠を超えて学修しながら、学生が自分で自分のメジャーを選択、決定できるシステムにしたいと思っています。

方向性の第二は広く社会に眼を向けて自分のキャリアを展望しながら、課題を見つけ探究し、考え抜く能力と必要な専門知識を身に付けることのできるカリキュラムです。そのために、アカデミック・スキルの徹底した修得と、イントロダクトリー、ベーシック、アドヴァンスドにクラス分けした専門科目を体系的に学ぶことが

求められます。

第三の方向性は、「人類を結ぶ世界市民たれ」という人間学科の指針に答えられる、語学力の育成です。これまでの文学部の外国語教育の伝統を活かして、英語だけではなく、中国語、ロシア語などプラス1の語学力の習得と、グローバル化に対応できる異文化理解力の育成を含んでいます。留学機会をさらに拡大することはそのための重要な方途です。

しかし、こうしたカリキュラムの改定も、教員自身の意識改革を伴わなければ絵に描いた餅になってしまいます。一人ひとりの教員がこれまでの自分の授業方法、教育指導のあり方を見直して、学生が習得しうる学習成果、知識、能力を明確に意識し、その実現に責任を負うという気概で学生と向き合うことが求められています。

文学部では今年度、外部の講師を招いて卒業論文指導のあり方を共に学ぶFD講習会を実施し、卒業論文を専門教育の到達点として、高い水準の卒論の完成を目指すことを確認しました。また担当する科目で全教員が授業見学会を開催するとともに、一回は他の教員の授業見学会にも参加し、感想や意見を交換することにしました。ピア・レビューを通じて互いの授業

実践能力を高めていくとともに、文学部という組織に授業実践の経験と知恵を蓄積していきたいと考えるからです。これまでの自分の経験だけで判断するのではなく、他の教員の知見も参考にしながら、自分の教育活動を見直してみる

こと、このようなことが日常的に行える文化、雰囲気学部の中に作り出していくことと、そのなかで各自の教育能力が自然と鍛えられていくことがFD活動において最も重要なのではないかと考えています。

新任あいさつ

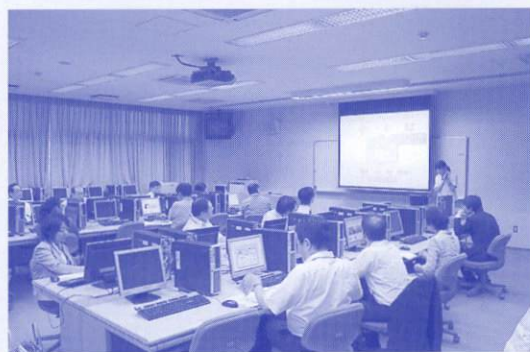
学士課程教育機構 准教授 山崎 めぐみ

本年9月より、学士課程教育機構に准教授として就任しました。現在は、CETLでプレSA研修、日本語表現法学習セミナーのコーディネートを担当しております。また、2013年度開設予定の総合学習支援センターの準備に携わりつつ、共通科目のラーニングアウトカムズの設定、点検・評価・改善のお手伝いをしております。

私は大学院修了後(Ph.D.取得)8年間アメリカの大学で社会人学生の修学指導やプログラムの開発に携わって参りました。こうした経験を活かし、皆様のお役にたてるよう尽力してきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

第4回 CETLセミナーを開催

8月24日(火)に開催された「TIES夏のシンポジウム in Tokyo」の午前の部を兼ねて、第4回CETLセミナーを開催しました。このセミナーでは、NPO法人CCC-TIESの堀真寿美氏より「TIES入門編および新機能について」と題してTIESの特徴の一つであるウェブカメラだけで簡



セミナーの様子



NPO 法人 CCC-TIES 堀真寿美氏

単に授業収録ができる機能に加え、新たに追加された練習問題付きビデオ(Glexaビデオ)を作成する機能や、撮りためた授業を組み合わせる別の科目を作成する機能などが紹介されました。本学教員6名を含め、学外者など総計14名は、TIESの先進的なシステムの説明を熱心に聞き入っていました。

夏のアドバイザー研修

CETLのGP事業の1つであるアカデミック・アドバイザー研修が、7月末から9月初めにかけて、コーチング入門、コーチング基礎、マインドマップ講習の3種の1日研修会が計8回開催されました。これには延べ100名を超える教職員が参加しました。

コーチングセミナー

NLP認定トレーナーの杉本薫氏（CETL特別センター員）を講師として、「コーチング入門講習」（7月27日、8月4日、8月26日）「コーチング基礎」（8月31日、9月2日）を開催しました。



NLP 認定トレーナー杉本薫氏（CETL 特別センター員）

カウンセリングが心理的不適応への対処法として認知されているのに対して、コーチングは個人向けガイダンスのような感覚で捉えられています。今回のセミナーではアドバイザーにとってコーチングやカウンセリングの基礎とされるコミュニケーションの仕方を体験的に学ぶ機会となりました。

今回はNLP（Neuro-Linguistic Programming）の考え方を踏まえて、相手との信頼関係を築く話し方や接し方、相手の問題を整理する質問の仕方や励まし方など、アドバイザーに必要なス

キルを体験的に学びました（入門34名、基礎12名）。



コーチングセミナーの様子

マインドマップセミナー

マインドマップの提唱者であるトニー・ブザン氏によるブザン教育協会公認のインストラクター、上田誠司氏（株エクセル教育研究所代表取締役）を講師として「マインドマップ講習」（7月29日、8月3日、8月25日）を開催しました。



株エクセル教育研究所代表 上田誠司氏

思考の可視化、思考の加速化ツールとも呼ばれ、知的生産性を上げるツールとしてビジネス界を中心に注目を集めているマインドマップは、学習スキルを身につける講座としても大変有意義な研修です。アドバイザーにとって、マインドマップの効果を体験的に理解することができ、



マインドマップセミナーの様子

テキストのまとめや会議のまとめなど、実践的な使い方と考え方を中心に学ぶ研修会となりました。「マインドマップ講習」には71名が参加し、大変活況なセミナーとなりました。



マインドマップ

参加者の声

- ・マインドマップは意識やイメージの共有をはかる最短・最適のツールだと感じました。個人においても考えが引き出され、整理できる点は素晴らしいです（8月3日開催：マインドマップ）
- ・本学の発展のために情報を共有し、目的達成のために力を尽くす意識が高まりました。（8月3日開催：マインドマップ）
- ・コーチングの研修で、相手を信頼し、相手のなかに答えが必ずあると信じ、答え、導き、目標を目指せることが大事であると学びました。（8月26日開催：コーチング）
- ・すぐに取り組めることから講演していただきました。是非次のコーチング基礎編も受講したいです。（8月26日開催：コーチング）

コーチングフォローアップの集い

9月29日（水）16時30分から18時30分、文系A棟6階会議室において、NLP認定トレーナーの杉本薫氏（CETL特別センター員）を講師に、これまでコーチングセミナーを受講した教職員を対象に、フォローアップの集いが開かれ、11名が参加しました。

今回のコーチングフォローアップは、アカデミック・アドバイザー研修受講のリフレクションとして「CETL教育サロン」の一環として開催しました。アドバイザーにとって学生との面談は大切な仕事ですが、NLPによるカウンセリング技法が相手とのラポール（信頼関係）を築くこと、リフレーミングによる視点を変えることの重要性について意見交換をしました。

研修後のリフレクションはそれぞれの問題意識を共有することができ、貴重な機会となりました。



セミナーの様子

第5回 CETLセミナーを開催

10月15日（金）16時45分から18時30分、文系A棟424教室において、26名の教員が参加して開催しました。今回のセミナーでは関田一彦



関田一彦教育・学習活動支援センター長

CETLセンター長を講師に、「学習課題と評価方法」をテーマに開催されました。講師から口頭

発表やレポート課題を評価する際に有効な評価ルーブリックの作成・活用方法についての説明がなされた後、教員との活発な意見交換が行われ、大変盛況なセミナーとなりました。



セミナーの様子

北海道の3大学を視察

現在、CETLで推進している大学教育・学生支援推進事業の一環として、学習支援体制の優れた（GPの取組）北海道の3大学（はこだて未来大学、北海道情報大学、千歳科学技術大学）を、本学の馬場副学長、池田教務部長、関田教育・学習活動支援センター長をはじめとする5名の教職員が視察しました。

開放的なオープンスペースで有名なはこだて未来大学はPBLの実践でも著名（平成15年度GP



はこだて未来大学



はこだて未来大学の研究スペース

採択）です。また、学習eポートフォリオによる学習支援で全国から注目を集める北海道情報大学では富士隆副学長から説明を受けました。さらに、本学でも利用されている数学講習教材を提供している千歳科学技術大学の優れた学習支援活動であるメディアコンサルタント制度を視察しました。これらは本学にとって大変有意義な視察となりました。

創価大学「第8回FDフォーラム」を開催します

創価大学「第8回FDフォーラム」が、下記の通り実施されます。今回、第1部では「大学改革、次の10年の動向を考えるーアメリカの大学改革を参考にしてー」をテーマに、学士課程における専門教育と教養教育の関係について、立命館大学の江原武一先生にお話をさせていただきます。

学生の書く力や論理的思考力の育成は、教養教育としての課題として考えられるだけでなく、専門教育の成果を図る指標としても重視される

ようになると考えられます。

一方、入学してくる学生が多様化する中で、大学で学ぶスキルの重要性がますます求められるいま、アメリカの大学ではどのように対応してきたのか、その取り組みを学ぶことで、今後の本学の教育改善に役立てたいと考えています。

また、続いての第2部では平成22年度「大学生の就業力育成事業」(就業力GP)に本学・経済学部との取り組みが採択されましたので、その採択報告も行います。

開催日時：12月11日(土) 13:00~16:30

13:00~15:00 第1部 FD講演会(江原武一氏：立命館大学教育開発推進機構)

15:15~16:30 第2部 平成22年度文部科学省「就業力GP」採択報告会

開催会場：創価大学 S201教室

主 催：創価大学 全学FD委員会

後 援：大学コンソーシアム八王子 戦略連携GP八王子未来学

参加希望者は、12月8日(水)までに下記あてにご連絡ください。

Eメール nirasawa@soka.ac.jp (教務第1課 荻沢賢一あて)

TEL 042-691-2203 (内線2654)

編集後記

21世紀最初の年に創刊されたQuarterlyは今年で10周年を迎え、次号をもちまして新たな広報紙にバトンタッチする事となりました。新たに開かんとするこの年に節目を迎え、本学の教育・学習活動支援がますます拡大・拡充していく事を実感しています。(K)

C E T L Quarterly No. 41

編集・発行

創価大学 教育・学習活動支援センター

〒192-8577 八王子市丹木町1-236

Tel: 042 (691) 9782 内線 2146

E-mail: cetl@soka.ac.jp

http://cetl.soka.ac.jp/